



第3回せせらぎシンポジウムの報告

『せせらぎのこれから』

せせらぎネット 松本 浩次郎

六月十二日(日)午後、国際交流センター会議室にネット会員を中心に十八名が集まり、『せせらぎのこれから』について語り合いました。



平井代表の挨拶

シンポジウムの模様



六月十二日(日)午後、国際交流センター会議室にネット会員を中心に十八名が集まり、『せせらぎのこれから』について語り合いました。千々和みどりが司会し、せせらぎネット代表・平井資嘉寿の挨拶で始まりました。はじめに事務局長の田辺勝義がコーディネーターとして、『せせらぎのこれから』について語り合いました。昨年アンケートを行い、四百名以上の回答と、多様なご意見を頂きました。これを生かすために、関係有識者のご意見も頂き、『せせらぎのこれから』に役立てたい」と、シンポジウムを開催経緯と目的を説明しました。次いで四名のパネラーが夫々の立場で発言しました。「行政」の立場からは川崎市公園管理課担当課長・板橋茂夫氏が「①昔の面影を伝える

“清流の道” “あぜの道” など「せせらぎ遊歩道の構成」②4つの管理運営協議会と4つの愛護会で「管理運営するせせらぎの現状」③協議会、周辺関係者の話し合いと合意で「楽しい公園づくり」を進めて欲しいなど、が説明・要望されました。

「学校と子供たち」の立場からは、下小田中小学校校長新山達氏が、①祭りに参加して「地域との触れ合い」が広がった。②せせらぎで、子供たちに「自然との共生」を学ばせたい。③せせらぎを通して「人との関係、昔の暮らし・遊びを学ばせる」こと、などを期待したいと話されました。

「町会」の立場からは、下小田中5丁目の河野健三氏が、①この地域は人口増加・高齢化が顕著で、町会の役割が大

きい。②災害に強いコミュニティづくりが急務だ。③西中原教育会議で子供の花植えを行った。④せせらぎの高度処理水を災害対策にも活用を。などと、大震災対応も強調されました。

「せせらぎネット」からは、副代表の松本浩次郎が、①せせらぎ開通時からの私のボランティア活動のあらまし。②「江川の環境を良くする明津会」の「清掃活動と絆づくり」③せせらぎネットの役割を説明し、現状はイベント重視で、維持活動が手薄との批判がある。アンケートで利用者の思いや要望を探り、今後に役立てたい。などの、ご意見が述べられました。休憩後の質疑では、①「花植え」はダメか? ②せせらぎ開設時に植えられた草花が土地に合っていないので、枯れしてしまった。③遊歩道の植栽箇所の土地にガラが多く、土が悪いので草木が育たないか。④川岸の木杭など破損箇所が目立つ。⑤高度処理水の浄化は出来たか? など有益なご意見がでました。

「観る今後の課題」
①交通安全に關する事
自転車の乗り入れ防止対策、横断歩道の増設等。
②美観維持、改善に關する事
トイレの清掃、護岸補修、手摺補修、悪臭改善等
③モラル向上への呼び掛け
餌さやり、ベットの立ち入り
④その他
モラル向上と、安全の為の
パトロール活動
せせらぎネット幹事会で
は、これらの内容を討議・
確認し、一つ一つ実現して
行きたいと考えております
ので、今後ともご支援を、
お願い申し上げます。

「花植え」については、行政から「行政では決められない。管理運営協議会の中で話し合っって欲しい」との見解が述べられましたが、「土壌

「水質」などについては課題も大きく、時間の制約もあり、今後の課題になりました。
「アンケート結果集約に
観る今後の課題」
①交通安全に關する事
自転車の乗り入れ防止対策、横断歩道の増設等。
②美観維持、改善に關する事
トイレの清掃、護岸補修、手摺補修、悪臭改善等
③モラル向上への呼び掛け
餌さやり、ベットの立ち入り
④その他
モラル向上と、安全の為の
パトロール活動
せせらぎネット幹事会で
は、これらの内容を討議・
確認し、一つ一つ実現して
行きたいと考えております
ので、今後ともご支援を、
お願い申し上げます。

2011 8月14日(日) 地域の安心地球の平和 祈りを込めて 灯ろう流し

日時 8月14日(日) 16時頃~8時

会場 せせらぎ遊歩道 東屋周辺

※乙女文楽も上演します。

主催 / 森とせせらぎネット 代表 / 平井 資嘉寿

●購入先 平井 (090-5336-0035) 柴崎 (044-766-5965) 松本 (090-8813-1076) 田辺 (044-766-5315)

※見学無料・雨天中止

灯ろう流しを今年も

せせらぎネット事務局 田辺 勝義

今年、お盆の8月14日(日)夕に、第4回目の灯ろう流しが行われます。

今年、お盆の8月14日(日)夕に、第4回目の灯ろう流しが行われます。今年、お盆の8月14日(日)夕に、第4回目の灯ろう流しが行われます。

晴れば、暮れていく空の色を映して流れの色が時々刻々と変化していきますのが本場にきれいです。夕焼けの赤みを帯びた青から、群青に変わり、やがて宵闇が迫ってくるせせらぎがとても美しい。そこに、火の灯された灯ろうがゆったりと流れる様は幻想的で、ふと夢見心地になり、普段の慌ただしさを、現世を忘れるような



感じがするものです。灯ろう流しは、「地域安心地球の平和 祈りを込めて」行われませんが、今年、先祖を送り、戦争の犠牲者に思いを致すことと、東日本大震災の犠牲者に対する祈りも加えたいと思います。灯ろうキットは300円に抑えました。灯ろうが途中で沈んでしまわないような工夫もします。置き灯ろうも準備中です。宵のひとときをご一緒しましょう。皆さん、家族連れでお出下さい。

森とせせらぎネットワーク 行事予定

沿線町会清掃参加
7月16日(土) 7時~井田第二共和会
8月14日(日) 7時~明津町会

第4回灯ろう流し開催
8月14日(日) 午後6時~せせらぎ遊歩道
小関橋付近・当日は乙女文楽の上演有り

第五回『森とせせらぎ祭り』
11月6日(日) 高津区橋公園
*出演者の募集は締め切りました。

- 灯ろうは300個限定ですので、予約購入をお勧めします。予約購入先は次の所です。
- 平井 090-5336-0035
 - 柴崎 044-766-5965
 - 田辺 044-766-5315
 - 松本 090-8813-1076
- *ご予約はお早めに!

編集後記
お蔭様で「せせらぎネットワークニュース」は今号で21号を迎えることができました。年に4回発行ですから単純計算で今号が6年目最初の号となります。次号からは、ご要望があればメールにてカラー配信させていただきます。形式はPDFでの配信です。
ご希望の方は裏面最下段に掲載の「お問い合わせメールアドレス」までご連絡ください。いただいたメールアドレス等の個人情報法に準って適正に管理し、他の用途では使用いたしません。

〜シリーズ地産地消〜

中原・高津の農家

記者・広報本間

シリーズ2回目の今回は、初回記事の鹿島さんからのご紹介で鹿島さんの小島正夫さんの直販所と、この季節は毎週行っておられるJ.R武蔵中原駅JA前の出張販売も同時に取材させていただきました。



見ればすべてコンクリートで埋め固められています。時代の流れとはいえ、なんだか痛々しい気持ちさえしてきます。

それでも昔からの農家のおかげで、新鮮で美味しい野菜を食べることができると感謝したいと思えました。

震災の復興はこれからですが、未来を生きる『子供たちに何を残すのか』というのを改めて考えさせられる取材でした。

ビールが好きな記者には、次は枝豆という楽しみが待っています。

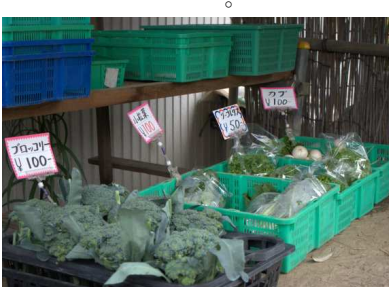
小島さんの直販所
中原区下小田中2,261



出張販売は、小島さん鹿島さんほか数人のグループにより毎週行われており、数時間で売り切れてしまうほどの盛況ぶりです。取材の際、記者も慌ててソラマメを購入し鹿島さんの教えどおり採れたての「風味」を堪能しました。

やはり「地元の採れたては違う!」と改めて感じました。舌が嬉しいとはこのことですね。

畑ではリーフレタスの緑がみずたくし目に映えます。小島さんのご両親が健在でお仕事をされています。中原区にあるこの畑の周りには以前、幾筋もの水路があり、土地を潤していたというお話を聞きました。



連載

「詩吟―続」 稲本吼信 (こしん)

カラオケを楽しんで居られる方は、「やっぱりカラオケの方が楽しいワイ」とオッサナル事でしょうが、音楽の(歌の)「いろは」は、生まれた時のお母さんの子守唄から、小学校、中学校の義務教育を通して十年以上も教えられてきているのです。「カラオケの難しさは、納得できましたか?」是に比べれば、詩吟の「いろは」は、何と一年足らずで卒業出来、本来の練習に入れる訳ですから、どうと言うことは無いのです。

さて、基本が身についたら皆さんは如何されますか?カラオケをやられる方は、元々先生がいる訳では有りませんが、音楽が得意な学科だったり、不得意な学科だったり、人に習う事に素直なタイプだったり、独りよがりなタイプだったり、人サマザマで、本当に人生いろいろ、心もいろいろです。幸いな事に、天性で良い音感と声帯をお持ちの方、残念ながら音感がイ

マイチの方、全く音痴の方、いろいろな条件の中で自分のやり方(方針)を、自分で決め、目的達成のため頑張る訳です。

しかし、自分を知る人は、自分に忠実です。やりたい事があれば、師を求め「いろは」を身につけるべく、一歩を踏み出します。この一歩が、すべてです。前回「小唄」の如く「いろは」が身につくまでは何とも通過すると、なんと、後は何も考えることなく、スムーズに自分のやりタカッタ練習に入れるのです。師匠付きで...



〜各地の祭を訪ねて〜 番外編

鎮魂と再生の思い込め、東北六魂祭

佐藤 克明

三月の後半から、仕事の合間に、長年つきあいのある東北各県の文化施設とそこで活動する文化団体を訪ねることを続けていきます。瓦礫の片付けや、図書館の書棚から落ちた本の整理にも携わってきました。

大震災のニュースの映像も衝撃的でしたが、私の訪ねた現場は、貴重な文化の積み重ねと人びとの心の拠り所を一気に失ったところです。それでも被災した人たちのためにすぐに行動を起こす文化施設職員や文化団体リーダーの姿に、私の方が刺激を受けることもしばしばでした。祭こそは、地域社会の重要な文化。地域の心の拠り所です。壊滅的な打撃を受けた南三陸町でも陸前高田市でも、伝統の祭があり、また、物産市のある産業祭もありました。

陸前高田の太鼓フェスティバルは全国の大鼓奏者が毎年そこを目標にして稽古し、愛好者も集まる、大盛況の祭でした。それらの多くが、「今年はまだ未定」です。注目される新たな動きが、「東北六魂祭」。この小文を福島県いわき市で書いてある時点では、二週間後になる七月十六、十七日、仙台で開催されます。

東北六県の代表的な祭、青森ねぶた祭、秋田竿まつり、盛岡さんさ祭り、山形花笠まつり、仙台七夕まつり、福島わらじまつりが、史上初めて仙台に集い、公園



「写真提供・福島わらじまつり実行委員会」

と大通りに繰り広げる鎮魂と再生の祭りです。

この計画を知って、ああ、わたしもその中において、東北の誇り高き魂に触れたいと強く思いました。

関係団体イベント紹介

井田健康の森を育てる会

8月4日(木) 9時〜

井田山クリーンデー

神庭緑地を楽しむ会

8月7日(日) 9時15分〜

流しそーめん

参加費100円どなたでも可

ひとみ座

乙女文楽教室参加者募集

小学校高学年〜中学生

男子も可10名・申し込み・問合せ

現代人形劇センター

0447772228

ろう者と聴者が協同してつくる

人形劇団

デフ・パペットシアター・ひとみ

結成30周年記念作品

『森と夜と世界の果てへの旅』

問合せ0447772228